# off Shot

今号の取材で宮城県岩ヶ崎高校のある栗原市を訪れました。同市は移住・定住の推進で知られており、その中心となっているのが、同校の近くにある六日町通り商店街です。全国から視察が相次ぐほど、地元出身者と移住者が一緒に活気あふれるコミュニティーを築いています。活気の源の１つに、岩ヶ崎高校との協力体制があります。“パイセン”と呼ばれる同校卒業生の地域コーディネーターが週に２日、進路指導室に在室し、生徒に地域の課題を共有することで、その解決への協力を後押ししています。廊下の掲示板には、商店街からの様々な依頼が貼られていました（**写真**）。

各校の地域連携の取材で教えていただきましたが、企画から参加できる依頼は高校生にとって成長の機会となり、人気があるそうです。地域連携は全国で増えました。地域に高校生をさらに呼び込むには、募集する大人の側が生徒の成長につながる提案をすることが重要だと感じました。（齋藤）

VIEWnext公式アカウント

**LINE@**

**友だち募集中！**

『VIEW next』の LINE を友だち登録していただければ、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします！

**[友だち登録の方法]** 上の２次元コードを読み取っていただくか、LINE アプリの「友だち追加」＞「ID 検索」で「@view21」とご入力いただき、追加してください。

VIEWnext

**高校版　2024年４月号**

**4月22日発刊**

（予定）

『VIEW next』高校版は
年６回の発刊です。

# Reader's VIEW

先生方からのご意見を紹介します

## 2023年12月号へのご意見

### ICTを活用した生徒への声かけを試してみたい

授業や事務処理において、ICTを日常的に活用するようになっている。他校の様子や先生方の活用法を知ることで、現場で生かせるヒントを多く得ている。12月号の特集の課題整理に書かれていた高知県・私立土佐塾中学・高校の藤澤佑介先生の実践を読み、課題進捗状況の一覧化をぜひ参考にしたいと感じた。教師側での把握に加えて、生徒への声かけに利活用できそうなので、早速試してみたい。

**長野県　匿名希望**

### 教師が新たなものを受け入れ、まずは使う大切さ

12月号の特集の課題整理を読み、埼玉県立朝霞高校 定時制課程の浅見和寿（かずとし）先生が実践していた、生成AIが作成した意見と浅見先生が作成した意見を生徒に示し、両者の違いに気づかせて、人間が考える意味を理解させることで、学習意欲を高めようとした取り組みは、生成AIをあえて利用した具体例としてとても参考になった。静岡県立静岡東高校の神谷隼基（かみやとしき）先生は、情報・データの利活用に関して、「変化を受け入れる姿勢が、学校には求められる」と述べていたが、教師が新たなものを受け入れ、まずは使ってみる姿勢が必要なのだと感じた。その上で、生徒が多様な友人や教師と話したり、学んだりすることで新たな気づきや学びを得て、豊かな人生を築き上げることができる場こそが学校であると、改めて考えた。

**東京都・私立東京農業大学第一高校　小堀健一**

### 「改善サイクルの速さ」という捉え方を校内で共有

12月号の特集の課題整理では、生徒に情報を吟味する力を養うことの大切さが議論されていた。静岡県立静岡東高校の神谷隼基先生が指摘していた「ゼロから何かを生み出す粘り強さは薄れている」という点は、同僚と度々話題になる。だが、神谷先生が同時に言及していた「改善のサイクルを速く回すことができる」という視点で捉えたことはなかったので、新鮮な感覚を覚えた。その捉え方を持つかどうかで、生徒へのアプローチや声のかけ方が変化すると思うので、校内で共有したい。

**静岡県立御殿場高校　松浦恵太**

### 先進事例を基に、定期考査の廃止を前向きに議論したい

定期考査を廃止して、単元テストを実施することには賛成する。生徒が自分の得手・不得手をはっきりと知ることができ、長い目で見れば学習習慣が定着しやすいのではないかと考えるからだ。ただ、その話をすると必ず、「単元テストは全クラス一斉に実施できないため、問題があるのではないか」といった意見が出て、私はそれに反論できずにいた。12月号の「指導変革の軌跡」の鹿児島県立与論高校の記事では、定期考査を廃止し、単元テストを実施するねらいを生徒に丁寧に周知することで、生徒の誠実な取り組みにつながっていると書かれていた。この先進事例を紹介すれば、定期考査の廃止と単元テストの実施について、前向きに議論できるのではないかと感じた。『VIEW next』高校版には、この事例を数年間追跡し、人事異動のある公立高校において定期考査を廃止した後のシステムを維持するためのノウハウをまとめることを期待する。

**大分県立盲学校　堀 奈々絵**